

ドイツ G7 サミットにおける 気候変動・エネルギーに関するリーダーシップへの期待

2015 年 3 月 5 日

WWF ジャパン（公益財団法人世界自然保護基金 WWF ジャパン）

2015 年は、気候変動（地球温暖化）およびエネルギー問題にとって、極めて重要な年になります。今年 12 月、パリで開催予定の気候変動に関する COP21 では、気候変動対策の新しい国際枠組みが合意されることになっています。

6 月の G7 におきましても、このパリで開催される COP21 を見据え、「気候変動」および「エネルギー」は、主要トピックとして挙げられていると聞いております。12 月の会議を成功に導くためにも、G7 でも着実な前進を示すことが必要です。

安倍総理は、前回の 2007 年のドイツ G8 サミットの際には、「美しい星」というビジョンを発表され、世界全体の排出量を現状に比して 2050 年までに半減することを全世界の共通の目標とすることを提案されました。

この度のドイツ G7 サミットにおいても、COP21 の成功に向けて、今一度リーダーシップを発揮されることを期待し、以下の 3 点をお願い申し上げます。

- ✓ **日本としての野心的な約束草案策定作業の加速**：COP21 での 1 つの焦点は、2025 年もしくは 2030 年に向けての温室効果ガス排出量削減目標です。これについて、世界の主要国は 2015 年 3 月末までの提示を目指して準備を始めており、2 月 27 日にはスイスが最初に約束草案を国連に提出しました。残念ながら、日本はその検討作業が圧倒的に遅れており、このままでは世界的な合意の足を引っ張るだけでなく、日本の国際的な地位低下が加速する恐れがあります。日本として、国際的な合意である「2°C未満」に整合するような、野心的な目標の早期提示をお願い申し上げます。なお、約束草案には、排出量削減目標だけでなく、途上国への資金支援や、適応計画等も盛り込んで頂きますようお願い致します。
- ✓ **世界全体の長期での排出量削減ビジョン**：気候変動をとりまく状況は残念ながら悪化しています。2008 年の洞爺湖 G8 サミットおよび 2009 年のイタリア G8 サミットにおいて宣言された世界全体および先進国全体での長期的な排出量削減目標（それぞれ 50%/80%削減）に基づき、さらに一歩踏み込んだ長期削減ビジョンが COP21 において合意されるように、G7 から示していただけるように、ご尽力をお願い申し上げます。

- ✓ **気候資金へのコミット**：2009年のコペンハーゲン合意以降、国際公約となっている2020年までに1,000億ドルの気候資金を世界全体で動員するという目標を、G7で再確認するとともに、それに向けての道筋も明示することをお願い致します。

ただし、G7諸国によるイニシアティブは、国連気候変動交渉に関連する事項に限定されるべきではありません。

上記に追加して、以下についても、G7全体としてとして取り組みを行うことをお願い申し上げます。

- ✓ 再生可能エネルギーの開発とシェア拡大を推進するために、途上国との二国間、あるいは多国間での新規のイニシアティブを発足すること。もしくは、既存の仕組みの焦点として再生可能エネルギーにより重点を置くこと。
- ✓ G7諸国における化石燃料への補助金の削減に向けた取り組みを加速させること。
- ✓ 石炭や関連インフラへの投資・融資をやめること。気候変動問題の重要性に鑑み、既に石炭や関連インフラから再生可能エネルギーへの投資のシフトは、世界的な潮流となりつつあります（世界銀行や欧州投資銀行、アメリカなど）。たとえ、効率の良いと言われる石炭火力発電所等への投資であっても、インフラ設備は長く使われることを考えると、現時点で「優先」すべき分野では少なくともないはずで

日本は、世界でも有数の排出国であり、気候変動問題については、重い責任があると同時に、解決のための鍵を握る国でもあると私たちは信じています。パリでの合意が、気候変動に関する新しい国際協力の門出となるよう、日本の総理大臣としてのリーダーシップの発揮をお願い申し上げます。